器具

手術を手際よく進めていくには、まずは使用できる器具の役割を把握し、使用方法を覚えておく必要がある。ここで各器具に関する基礎知識を身につけておこう。

1 System

8つの基本器具と特別器具を巧みに使い分けよう

手術では、8つの基本の器具といくつかの特殊器具を使って患部の治療を進めていくことになる。基本の器具は、画面左下のパレットに表示されており、ヌンチャクのコントロールスティックを使いたい器具の方向へ倒すとその器具が選択できる。別の方向へ倒さないかぎり、選択した器具を使い続けることが可能だ。特殊器具は特定のタイミングで出現する器具。そのとき以外は選択することができない。以下の各種器具解説では、8つの器具と特殊器具に含まれる要素をまとめ、それぞれの使い方とその効果を解説する。

器具を選択すると、左下のパレットに色が付き、ポインタに使用器具のアイコンが表示される。

各種器具解説

ヒールゼリー

コマンド 患部でⒶまたはⒷボタンを押し続ける

小さな傷を瞬時に治療するほか、消毒などにも使える万能薬。ⒶまたはⒷボタンを押すと、ポインタが指している周辺にヒールゼリーのエフェクトが広がる。ボタンを押し続けた状態でポインタをスライドさせれば、広い範囲を塗布することも可能。また、エフェクトが表示されているあいだはバイタルの低下を抑える効果もある。

ヒールゼリーは臓器を移動するスティグマの動きも鈍らせる。まさに万能な薬だ。

注射器

コマンド
【薬剤の吸引】ビンの上でⒶまたはⒷボタンを押し続ける
【薬剤の投与】患部でⒶまたはⒷボタンを押し続ける

バイタルを回復する回復剤や炎症を治す消炎剤などを投与する際に使用する器具。まずは投与したい薬剤のビンにポインタを合わせ、ⒶまたはⒷボタンを押し続けて薬剤を吸引する。このときボタンを押した長さによって液体の吸引量が変わる。吸引後は、患部にポインタを合わせて、再度ボタンを押し続ければ薬剤の投与を行なう。

注射を選択すると画面に薬剤の入ったビンが出現。使用したい薬剤を吸引しよう。

針と糸

コマンド 傷の上でⒶまたはⒷボタンを押したまま、ポインタをジグザグにスライドさせる

大きな傷や切開した患部、繋ぎ合わせた接合部などを縫い合わせるときに使用する器具。ⒶまたはⒷボタンを押したまま、ポインタをジグザグにスライドさせると縫合線が表示され、その軌跡に沿って患部を縫うことができる。切開時に限り、傷の途中でボタンから指を離したり、傷口から大きく外れると処置はミスになるので注意すること。

ボタンを離した時点で患部を端から端まで正しく縫えていれば縫合が行なわれる。

ドレーン

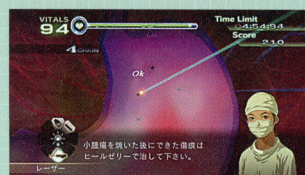
コマンド 患部でⒶまたはⒷボタンを押し続ける

患部を覆っている血溜まりや各組織の細胞間にある液体成分を長い管を使って吸引する器具。吸引を行ないたい患部にポインタを合わせ、ⒶまたはⒷボタンを押し続けることで吸引が行なわれる。ちなみに、ドレーンを使用中にポインタをスライドさせれば、吸い込み口に触れた血溜まりや膿を連続で吸引することも可能だ。

数ヵ所に血溜まりが発生しているなら、そのまま吸引し続けて治療することも可能。

レーザー

コマンド 患部でⒶまたはⒷボタンを押し続ける

小さな腫瘍や体内に寄生するスティグマを焼却する際に使用する器具。ⒶまたはⒷボタンを押し続けるとポインタの位置にレーザーが照射される。ポインタをスライドさせても照射し続けるので、動くスティグマの追撃が可能だ。ただし、異常のない部位に長時間照射すると臓器を傷つけることがあるので、無闇に使用するのは避けたい。

動かない患部を焼却するときは、様子を見ながら少しずつ照射すると安全だ。

メス

コマンド ⒶまたはⒷボタンを押したまま、ガイドラインに沿ってスライドさせる

皮膚の切開や患部の切除などに使用する器具。ⒶまたはⒷボタンを押したまま、ポインタをスライドさせるとその部位を切開する。切開の必要がある部位にはガイドラインが表示され、ライン上にあるすべての点にメスを入れれば切り取りに成功する。切開処置では、途中でボタンを離すとミスになるため一気に切る必要がある。

皮膚を切開するときは、ガイドラインの点を一筆書きで切り進めるのがポイント。